

外国語のススメ LL研究室

—●16●—

英語

上村 妙子 文学部教授

近年気になっていることが二つあります。「すぐにペラペラに英語を話せるようになる」と謳った英語学習本の多さと、最近の若者の海外離れです。

昨年カナダのモントリオールに2週間滞在し、その時大学院時代を過ごしたアメリカのペンシルバニア州にある町を訪ねお世話になった方々に再会しようと思いましたが、これが大変な旅でした。まず北米をハリケーンが襲い出発便がキャンセルとなり電話をかけまくって予約を取り直すことになりました。やっと出発しピッツバーグ空港に着くと今度は荷物が出てきません。仕方なく係員に1泊するホテルの住所を告げたとところ翌朝届きました。ようやく目的地に着きなつかしい方々と再会

海外でカッコ悪い自分に出会おう!



▲ アメリカでホストファミリーと一緒に上村教授(中)

できました。帰路乗継のワシントン空港でモントリオール便を待っていると、何とキャンセルになってしまいました。サービス・カウンターに行き、待つこと2時間、ようやく自分の番になりました。その後40分近い交渉の結果、翌朝のモントリオール便の切符、1泊分のホテルの宿泊券とタクシー券を得ることができました。翌日ようやくモントリオールに到着しました。

この間終始私は、自分の英語力を何とか駆使して目的を達成しようとする疲労困憊の「カッコ悪い」旅行者でした。英語力は失敗を繰り返しながら時間をかけて磨いていくものです。若者の皆さん、海外に出て「カッコ悪い」自分を見せながら、英語を少しずつ、でも着実に、身につけてみませんか。

※全文はLL研究室ホームページで。

「スマホ」のビジネスモデル提案

経営・渥美ゼミ



▲ 研究成果を披露する渥美ゼミ生

経営学部・渥美幸雄ゼミナール3年次生9人は、理系大学2校(公立はこだて未来大学、神奈川工科大学)と合同でケータイアプリケーション開発プロジェクトに1年間、取り組んできた。6回目となる今年度のテーマは「近未来型のスマートフォンアプリケーション」。

3校の総勢30人が各校の専門分野を生かし、専大生はビジネスモデルを担当。発表会は12月12日、本学生

話し合いで培った信頼関係

プロジェクト体験記

安達 玲奈



▲ 発表する安達さん

私はこの文理合同のプロジェクトを通じて、組織で動くことが非常に難しく、また同時に非常に有意義であることを学びました。

最も難しいと感じたことは、この文理合同のプロジェクトの中で、リーダーはコミニケーションギャップが起らないように、作業や情報の明確化を行い、メンバーに提示していかなくてはなりません。力不足もあり、うまくメンバーを導くことができませんでした。

そのような普段の作業にもサポートしていただけた協力企業の方々、また自分も他のメンバーを支えることで、その組織の環境はより良くなりました。このメンバーが一丸となってプロジェクトを進めたという誇りを持って得た経験や気持ちこそが、私にとっての何物にも代えがたい大学時代の財産です。それを忘れず、今後の成長の糧にしたいと思います。

とは、コミュニケーションギャップの解消です。まず遠隔地で別々に作業するという距離の壁があり、直接会って話し合うことができないのも重要な場でした。

お互いを知ることによって大学の垣根を越えた信頼関係が生まれました。リーダーとしてできることに精いっぱい取り組んできましたが、何より自分の仕事に責任を持ち努力してくれたからこそ、このプロジェクトは成り立ったと感じています。一人の力には限界があります。多くの人に支えられ、また自分も他のメンバーを支えることで、その組織の環境はより良くなりました。

書道研究会が
鳳祭選抜展開催
書道研究会(代表加藤謙吾さん・商2)は、昨年11月に開催された「創立133年鳳祭」で展示した約60作品の中から力作20点を選抜し、12月1日から13日まで、サテライトキャンパスで選



▲ 展覧を開いた写真

漫画研究同好会

「理想」 (文2 周防)



男子も多数参加
護身術講習会
痴漢に遭遇した時、性犯罪に巻き込まれた時の対処法を学ぶ講習会(学生生活課主催)が12月5日、神田キャンパスで開

催され、学生22人が参加した。神田キャンパスでの講習会は昨年からはじめられ、2回目。警視庁犯罪被害者支援室員4人が講師を務め、「性犯罪は女子だけの問題ではない」と、被害者側がどのように注意したらよいかをよく分かった」と話した。

●都立成瀬高校
10月6日、生田キャンパスで「二日体験入学」



▲ 森田准教授の講義(生田東高)

●専修大学松戸中学校
10月27日、生田キャンパスで「専修大学見学会」が行われ、中学3年生15人が参加した。キャンパス見学のあと、ゼミ室で生徒と学生のフリーキッキングが行われ、和やかに交流した。



▲ グループトーク(松戸中)

●附属フェスティバル
12月15日、生田キャンパスで「附属フェスティバル2012」が行われ、専大附属高の2年生374人とご父母26人が参加した。学部学科説明と模擬授業のほか学生企画など多彩な大学紹介プログラムが展開された。

高大連携

10月から12月にかけて高大連携協定校、付属高校・中学校との連携活動が行われた。



▲ 望月講師の講義(成瀬高)



▲ キャンパス見学(麻生高)

●専修大学松戸高校
10月25日、生田キャンパスで「二日体験入学」が行われ、1年生280人が参加した。森田司郎法学部准教授の模擬授業と、キャンパス見学が行われた。



▲ 附属フェスティバルの「学生企画」

●県立百合丘高校
10月3日、生田キャンパスで「一日体験入学」が行われ、1年生280人が参加した。佐島直子経済学部教授の模擬授業と付属高校出身者で組織する「Hi・Yo・Co」の学生引率によるキャンパス見学が行われた。

●県立麻生高校
11月21日、生田キャンパスで「一日体験入学」が行われ、1年生280人が参加した。吉田雅明経済学部教授の模擬授業とキャンパス見学が行われた。

●県立座間総合高校
12月10日、生田キャンパスで「一日体験入学」が行われ、1年生242人が参加した。山上精次人間科学部教授の模擬授業とキャンパス見学が行われた。

●県立川崎高校
12月12日、生田キャンパスで「一日体験入学」が行われ、1年生240人が参加した。森田司郎法学部准教授の模擬授業とキャンパス見学が行われた。